

資料 5－1

水需要調査の結果

水需要調査の結果

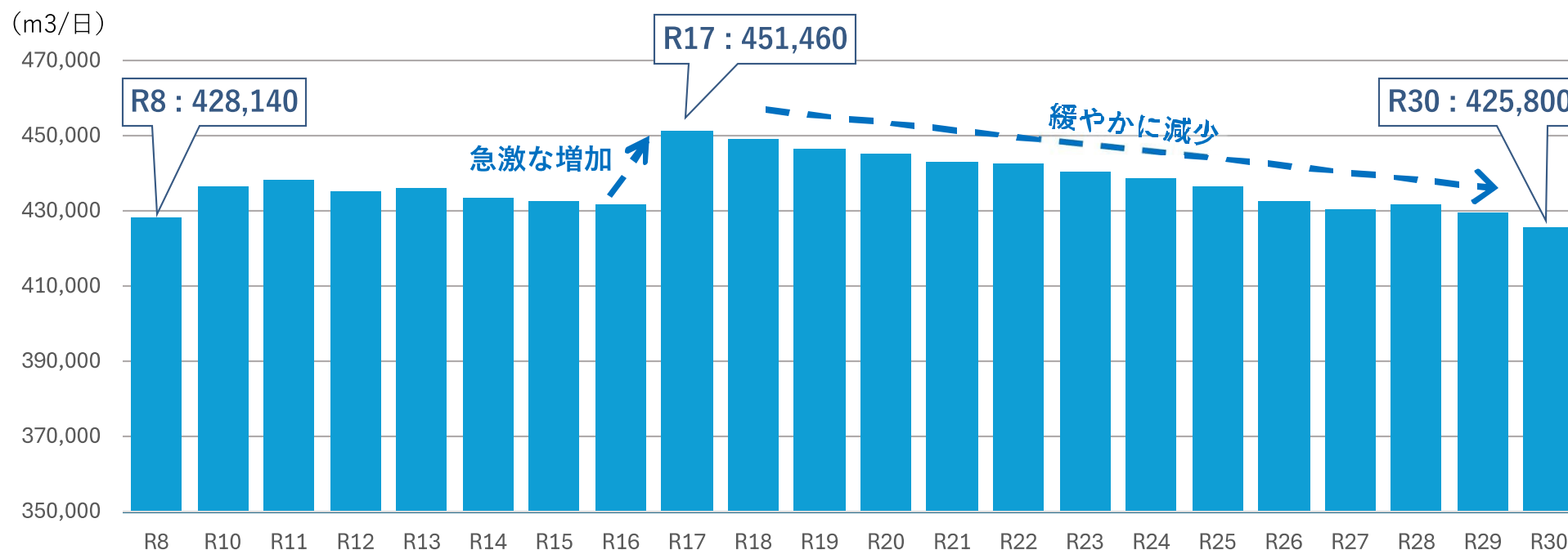
県営水道の水需要のピークは、R17年度の451,460m³/日

- ・ R17年度はR 8 年度と比較すると、23,320m³/日の増加
- ・ R17年度の急激な増加の主な要因は、R16年度に予定されている鳥羽浄水場（明石市）の廃止

R30年度の水需要は、R17年度以降、緩やかに減少し、R8年度とほぼ同程度

- ・ R17～R30年度の13年間で、25,660m³/日の減少
- ・ R 8 年度とR30年度を比較すると、2,340m³/日の減少

R 8 水需要調査結果（申込水量※1）



※1 申込水量は、1日最大受水量のことを指し、日平均受水量から県営水道の基準で算出（負荷率0.7）

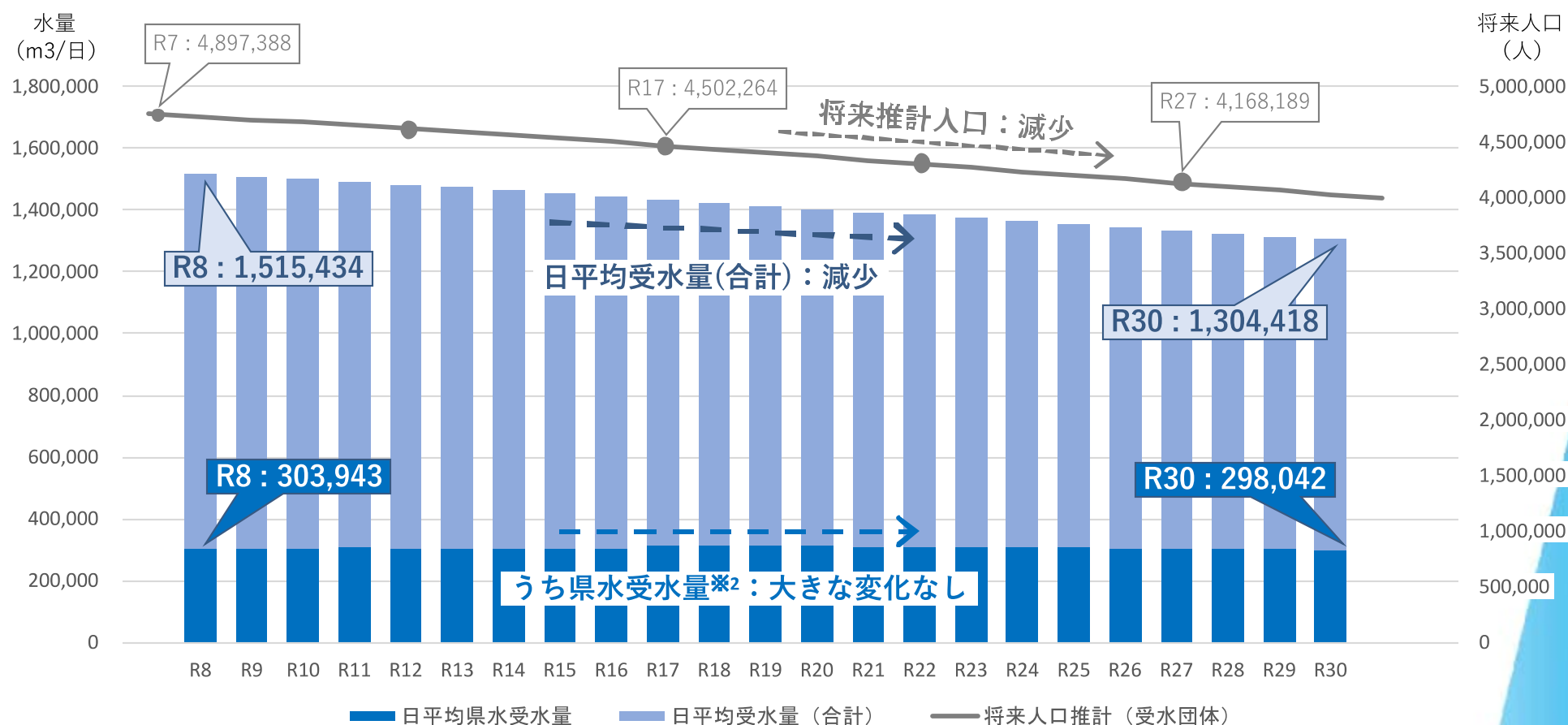
県水受水団体（25市町）の将来推計人口(合計)※1

・ R7年 : 4,897,388人 → R27年 : 4,168,189人 (▲729,199人、▲14.9%)

県水受水団体（25市町）の日平均受水量(合計)

・ R8年度 : 1,515,434m³/日 → R30年度 : 1,304,418m³/日 (▲211,016m³/日、▲13.9%)

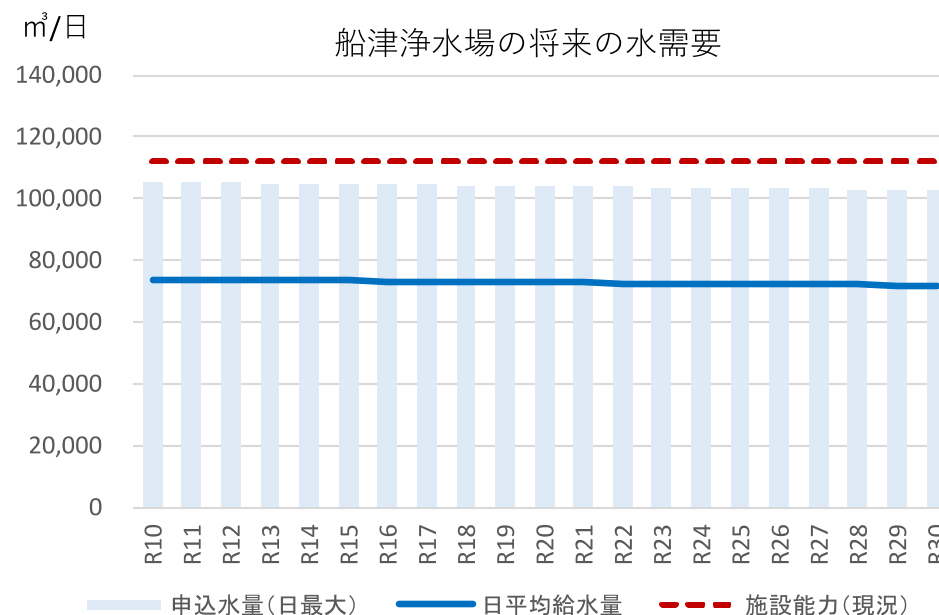
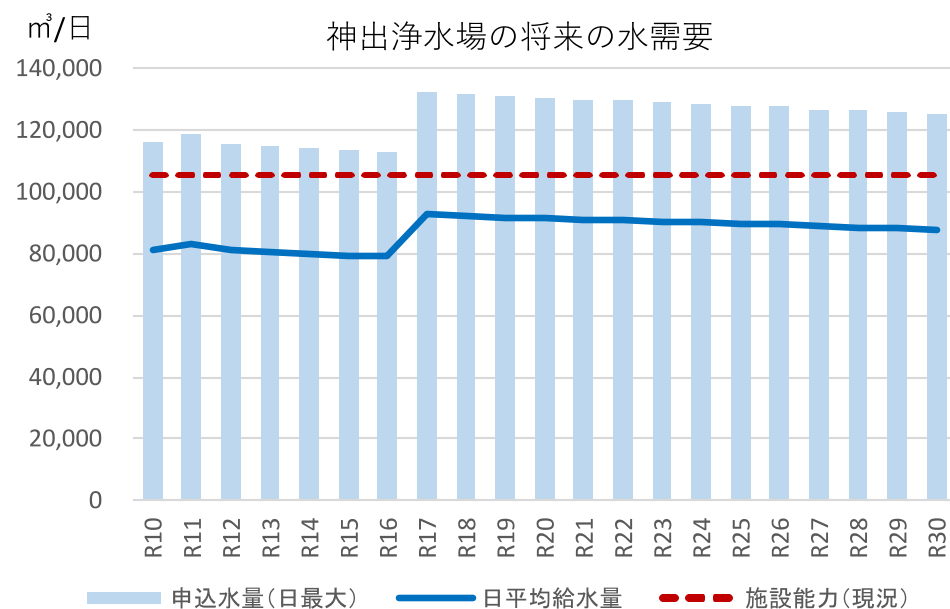
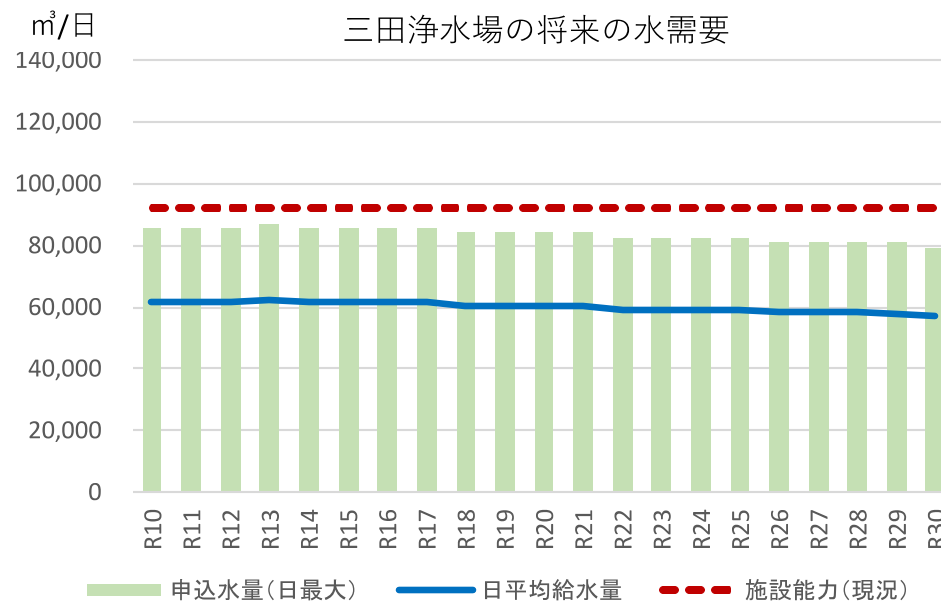
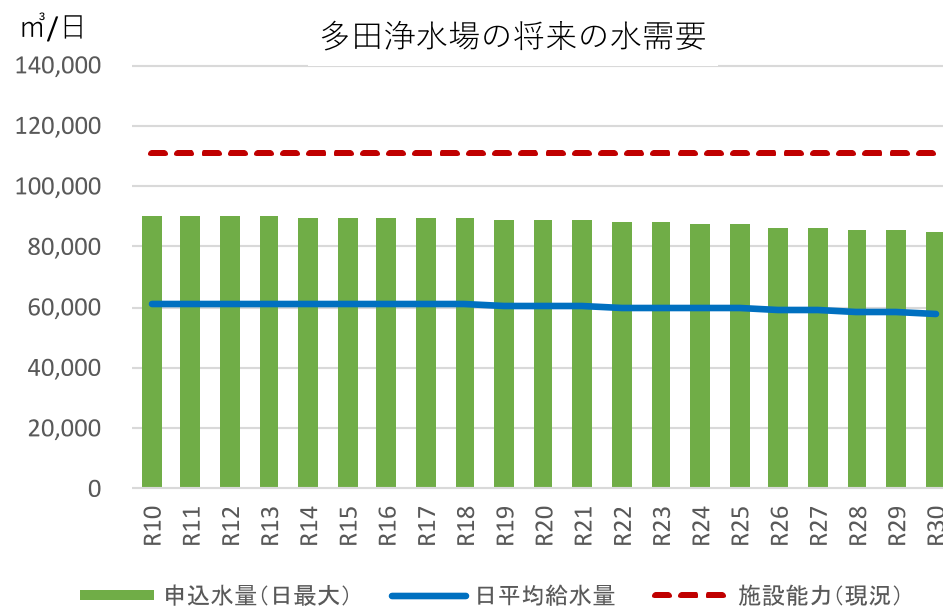
R 8 水需要調査結果（受水25市町の日平均受水量と県水受水量）



※1 日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計(国立社会保障・人口問題研究所)による

※2 県水受水量は、25市町の日平均受水量のうち、県からの受水量

・ 神出浄水場については、将来の申込水量が施設能力を上回る見込み



資料 5－2

今後の検討の方向性

中長期を見据えつつ、10年後に目指すべき方向性

将来の人口推計や受水団体の水需要、浄水場の更新時期等を考慮するなど、**中長期を見据えつつ、10年後に目指すべき方向性を、第2回委員会に向けて検討**

【10年後の考えられる姿】

「安全」「強靱」「持続」を追求した様々な取組を進め、**安全・安心な水を供給し続けている。**

- **水安全計画に基づく対応**がなされ、**水道GLP認証を堅持**した、「**安全**」な水道
- **災害への備え**や老朽化対策に合わせた**耐震化の推進**等による、「**強靱**」な水道
- 職員数減の中、**新技術の導入**や**官民連携**等の様々な手法を活用しながら、**県企業庁が直接担うべき業務に職員を適切に配置**した、水道サービスの「**持続**」
- 人口減に伴う水需要の減少を見据え、**垂直連携や水平連携の検討**が進捗

兵庫県地域創生戦略における人口推計



浄水場の状況

浄水場名	給水開始年度	経過年数
多田	S57.10	43年
三田	S61.5	40年
神出	S63.1	38年
中西条	H元.2	37年
船津	S54.4	47年

検討の方向性（安全）

➤ 水質の確保

- ・ 発生源管理者への注意喚起等による、原水の汚染防止
- ・ 事故発生の早期把握及び事故原因の早期究明による、水質事故発生時の被害最小化

検討の方向性（強靱）

➤ 災害への備え

- ・ 危機管理体制の整備、訓練の継続実施

➤ 渇水への対応

- ・ 渇水対策マニュアルに基づいた対策の継続実施
- ・ 工業用水道からの応援給水の検討

➤ 施設・管路の耐震化

- ・ 管路施設の更新にあたっては、CM(コンストラクション・マネジメント)方式や、DB(デザインビルド)方式等の活用を検討

検討の方向性（持続）

➤ 施設・管路の老朽化

- ・ 更新規模の適正化、AI管路劣化予測等、将来を見据えた予測の実施

➤ 職員の減少

- ・ 職員の確保
- ・ 県の投資規模の抑制が想定される中、職員配置の検討
- ・ 県内の他団体との人材融通の検討
- ・ 新技術や新手法（CM方式、DB方式等）の検討
- ・ 県職員が直接担い続けるべき業務の整理
- ・ 県職員のエンゲージメント向上に向けた取組の検討（スローガンを含む）

➤ 広域連携（垂直連携）

- ・ 受水団体の職員数の分析
- ・ 水需要調査結果や施設能力を踏まえた垂直連携の推進

➤ 広域連携（水平連携）

- ・ 阪神地域における用水供給事業のあり方の検討

➤ 官民連携

- ・ 県職員が直接担い続けるべき業務の整理
- ・ 県企業庁の事業環境に見合った、適切な委託レベルの検討

➤ 経営状況

- ・ 費用の削減や効率化を含めた、健全経営の維持

➤ 水道料金（平均供給単価）

- ・ 料金制度のあり方の検討

➤ 環境対策

- ・ 浄水発生土の更なる有効利用の検討

➤ DXへの取組

- ・ 更なるDXの推進の検討